

キャンプ体験による孤独感の変化が大学生の援助要請スタイルに及ぼす影響

高田 七夕子 (生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)

指導教員 黒澤 毅

キーワード：キャンプ, 孤独感, 援助要請

1. 序論

青年期は、内的葛藤の時期である¹⁾と同様に、深い孤独感に陥ることが少なくない¹⁾。大学入学という転機となる時期は孤独感を抱きやすく、孤独感を生じさせる社会的な関わりの減少は重要な課題である。一方 B 大学では入学直後に学生生活を充実させる目的として、キャンプを実施している。これは様々なプログラムの中で仲間と関係を築き上げるよい機会となる。そしてキャンプによって孤独感や援助要請スタイルの変化を明らかにすることは今後の学生生活を充実させる上でも効果的で意義あるものと考えられる。そこで本研究ではキャンプ体験による孤独感の変化が大学生の援助要請スタイルに及ぼす影響を明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

【対象者】B 大学が実施している 3 泊 4 日のフレッシュマンキャンプに参加する新入生 291 名 (A 日程 137 名, B 日程 154 名) を対象とした。

【調査用紙】

1) 孤独感アンケート: 工藤ら²⁾が作成した UCLA 孤独感尺度 20 項目を使用した。

2) 援助要請アンケート: 永井³⁾が作成した援助要請スタイル尺度 12 項目を使用した。

【調査日時】A・B 日程共にキャンプ前 (pre) キャンプ直後 (post) キャンプ二ヶ月後 (post1) の計 3 回実施した。なお得られたデータは SPSS にて統計的処理を行った。

3. 結果および考察

1) キャンプにおける孤独感 (pre-post-post1) の変化を検討するため、群と時期を要因とした分散分析を行った (表 1)。その結果、元々孤独感の高い学生はキャンプ後孤独感が低下し、孤独感の低い学生はキャンプ後向上した。また、どちらもキャンプ二ヶ月後には有意に低下した結果となった。非日常的な環境での慣れない活動で孤独感を抱いたり、新たな仲間ができたことによる孤独感の低下が要因と考えられる。更にキャンプ二ヶ月後に孤独感が低下したのは共通の体験を行った仲間と共に学生生活を過ごしたことが低下の要因と考えられる。

表1 孤独感得点群の平均と標準偏差

	N	M(SD)			F	時期
		pre	post	post1		
低得点群	62	40.31(5.68)	48.06(9.08)	35.10(8.32)		
中得点群	141	47.06(1.40)	46.45(5.51)	34.33(8.20)	35.917 ***	289.873 ***
高得点群	88	53.06(3.80)	48.11(5.49)	37.06(8.93)		

***p<.001 n.s.:非有意

2) キャンプにおける援助要請 (pre-post-post1) の変化を検討する為、因子と時期を要因とした分散分析を行った (表 2)。その結果、自立型では全ての時期において得点が高く、また、過剰型ではキャンプ二ヶ月後有意に向上した結果となった。キャンプ中の活動単位である班構成やその後の学生生活の中でのクラスが同じであり、お互いに助け合いながら学生生活に慣れるための援助行動が増えたのではないかと推察する。

表2 援助要請の平均と標準偏差

	N=291	M(SD)			F	時期
		pre	post	post1		
過剰型		12.85(5.83)	13.27(5.67)	14.12(6.05)		
回避型		12.35(5.17)	12.29(5.07)	12.05(5.10)	205.983 ***	2.977 †
自立型		19.32(4.42)	19.05(5.04)	19.69(4.60)		

***p<.001 †:有意傾向

3) 孤独感と援助要請の関係を検討する為、群と時期を要因とした分散分析を行った。その結果、元々孤独感の高い学生は低い学生よりも過剰型得点が高く、キャンプ前後で孤独感が向上した学生では、過剰型得点がキャンプ二ヶ月後向上した結果が見られた。非日常体験であるキャンプの中で、不安を抱いたり、自信を喪失する場面があった為、過剰に援助を求めていたと推察する。

4. 結論

孤独感による援助要請スタイルへの影響は一定の見解は得られなかったが、一人一人がキャンプ中に仲間とどのように関わり、自分を捉えていったかという質的な面でのアプローチが必要だと考える。

引用・参考文献

- 1) 堀田麻利子・藤津加奈子 (2004) 青年期の孤独感に関連する要因、生老病死の行動科学 pp. 15 - 27
- 2) 工藤力・西川正之 (1983) 孤独感に関する研究～孤独感尺度の信頼性・妥当性の検討～、実験社会心理学研究第 22 巻 pp. 99 - 106
- 3) 永井智 (2013) 援助要請スタイル尺度の作成～縦断調査による実際の援助要請行動関連から～教育心理学研究第 61 巻第 1 号 pp. 44 - 55